

Link Web IPU
このマークの記事の詳細は
岩手県立大ホームページに
掲載しています。
URL / <http://www.iwate-pu.ac.jp/>



02 特集1 県大の環境共生型キャンパス

自然と人間が共生する 地域の森へ!



CONTENTS

04 特集2 トークセッション
教員と学生による対話集VOL.7
**使命感をもって
プロのスキルをみがこう**
～人生を開く外国語の可能性

06 特集3 県大の留学生Q&A
**留学生生活を
楽しんでいますか?**

08 在校生紹介
10 県大YELLS
11 卒業生紹介
12 IPU通信



IPU地域連携フォーラム開催

地域とのパートナーシップを築く～県民シンクタンク設立に向けて～

12月18日、いわて県民情報交流センター(アイーナ)において、IPU地域連携フォーラムが開かれました。フォーラムでは、実学実践を建学の理念とする本学が、地域課題の解決に貢献するためにやってきた多様な研究の実績を学外に紹介。また本学が、県民のシンクタンク機能を担い、地域との連携や協働をさらに発展させるために、これからの地域とのパートナーシップのあり方を考えました。

研究成果発表プログラム

- 1「岩手県内の地域格差について」 宮古短期大学部教授 植田真弘・宮澤俊郎
- 2「小規模山林所有者の森林管理に関する意識調査」 総合政策学部教授 豊島正幸
- 3「思春期の生と性の健康へのアプローチ」 看護学部准教授 福島裕子
- 4「ICTを活用した高齢者の見守りシステム」 社会福祉学部教授 小川晃子

パネルディスカッション「地域とのパートナーシップを築くために」



- 【コーディネーター】
●地域連携本部長 総合政策学部教授 豊島正幸
- 【パネリスト】
●岩手県政策地域部政策推進室・政策監 大平 尚氏
●宮古短期大学部長・教授 植田真弘
●看護学部准教授 福島裕子
●社会福祉学部教授 小川晃子

研究成果発表に続いて行われたパネルディスカッションでは、本学がすすめる県民シンクタンク設立構想の紹介が行われ、地域とのパートナーシップを築くために求められる大学の役割について、パネリストと県民による活発な意見交換が行われました。

ポスターセッション

フォーラム開催にあわせて、各学部合計20テーマについて研究成果を紹介するポスターセッションが行われました。



「地域と大学が連携した災害時における看護・保健活動」
看護学部教授 三浦まゆみ



「岩手県の絶滅危惧植物アツモリソウの保全生物学的研究」
総合政策学部教授 平塚 明

「青少年の科学教育向けのユビキタス案内システムの活用」
ソフトウェア情報学部准教授 蔡 大維



一風堂マンガ
いろんな生物がいるね...



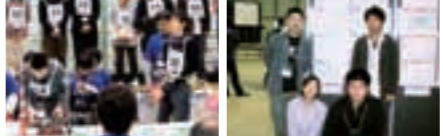
Link Web IPU
活気あふれる大学祭

第13回岩手県立大学大学祭「IPU Festa2010」が10月23日と24日の2日間、「繋～つながり～」をテーマに開かれました。学生と地域とのつながりを大切にしたいという大学祭のテーマにそって盛りだくさんの参加型イベントが企画され、会場は参加者の活気で大いに賑わいました。同時開催となった宮古短期大学部学園祭「蒼翔祭」のキャッチフレーズは「Turning Point ～新たな宮短へ～」。開学21年目を迎えた宮短の新たな時代の幕開けをアピールしました。



ETロボコン東北地区大会で
県大チームが総合優勝

「ETロボコン東北大会」が9月23日にアイーナで開かれ、ソフトウェア情報学部チームが、総合優勝(のんびりQ)と3位入賞(モノクアウト)を果たし、12月に行われるチャンピオンシップ大会への出場権を得ました。



チャンピオンシップ大会出場風景

TOPICS IPU

淵澤能恵 生誕160周年記念
フォーラム開催

11月13日、本学講堂において、「淵澤能恵 生誕160周年記念フォーラム」が開催されました。韓国女子教育の礎を築いた淵澤能恵は、1850年八重畑村(現在の花巻市石鳥谷町)生まれ。フォーラムは、同日開催の「日本韓国語教育学会創立記念国際学術大会」の一環。本学共通教育センター姜奉植教授が、淵澤能恵の伝記を翻訳しています。



公開講座「太平洋戦争前後の
日米交流～岩手の記憶～」

11月18日、アイーナキャンパスを会場に、二部構成による公開講座「太平洋戦争前後の日米交流～岩手の記憶～」の《第一部》「日米交流の証し」が開かれました。総合政策学部、共通教育センター、盛岡短期大学部の共同企画で、《第二部》「もうひとりの太平洋のかけはし」は、25日に同会場で開催。



【採用者情報】盛岡短期大学部 講師 小川春美
(10月1日付) 宮古短期大学部 講師 三村敬之



環境への配慮や共生を謳うキャンパスは近年たくさん造られていますが、すべてのキャンパスが、その後もよい状態を保ち続けているとはいえません。そのなかで、県立大学では維持のために払われている関係者の努力が並大抵ではありません。

景観づくりとは、自然と人工的なものを双方をバランスよく考えていくことです。これで完成ということではなく、時間とともに変わり続けていくのが景観です。このキャンパスでの学びが、学生一人ひとりの環境意識を育て、それぞれの専門分野をリードできる人材を生み出すことが、環境共生型キャンパスをもつ大学の使命でしょう。

県大を訪れる野鳥

撮影：上川 仁



●ヨシゴイ ●カイツブリ



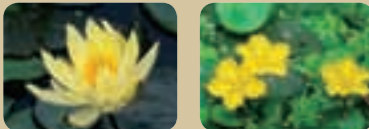
●カワセミ ●コゲラ



●バン ●ベニマシコ

県大に咲く花々

撮影：高橋富士雄



●スイレン(6月下旬) ●アサザ(6月下旬)



●ハマナス(6月下旬) ●ホニ(ハシクナガ)(5月中旬)

開学に際して原風景であるカラマツの防風林を生かした景観づくりが行われました



共通講義棟わきに設けられた渦巻き模様を知っていますか。この模様は、大地の凹凸で造られているのでアースワークとも呼ばれますが、銀河系をあらわしています。時計回りの弧がほぐれ、石畳の道は芝生の間を曲がりくねりながら続きます。各棟ごとにポプラの木が寄りそい、構内を一周して短期大学の東にたどりつきます。道の途切れた先に、大学のシンボルツリー・ドイツウヒの丘があり、その木立の先に視線を移せば講堂の十字が見えます。

キャンパスをめぐる一連の造形は、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を表現しています。銀河ステーションを出発した線路は、ポプラの停車場を經由して、宇宙をわたっていきます。地上界は、ケンタウル祭の夜であり、その聖木として賢治が詠ったドイツウヒで旅は終わります。旅の初めに白鳥座(北十字)、終盤にサウザンクロス(南十字)という二つの十字が登場します。

景観にさりげなく織り込まれた物語はこれだけではありません。他にも見つけられるでしょうか？

学部棟に寄りそうポプラは銀河鉄道の停車場

5. 物語のある大学



ドイツウヒの丘から望む講堂の十字



銀河をイメージしたアースワーク

県大では、隣接する滝沢森林公園とキャンパスとの一体化を図りながら、一般の人々に開放された公園として地域に親しまれる大学づくりを行っています。森林公園から続く生態学的回廊としての林は、リスなどの小動物や野鳥が行き交う足がかりになります。将来の森林の広がりに備えて、芝生は二つの種類が使い分けられています。大学は外から中に向かって、自然から人工的な空間へ移り変わりながら、4つのエリアに区分されています。

4. 滝沢森林公園との連続性



キャンパスの北部に隣接して広がる滝沢森林公園の森

スポーツエリア

- サッカー場、野球場、テニスコート、陸上グラウンドなど
- 原風景の中に効率よく配置

アカデミックエリア

- 原風景と建築群の調和
- 学部ごとに特色
- 学部間の交流をはかるガーデンスペース

コミュニケーションエリア

- 人々でにぎわう都市的なモール並木

3. ドングリから森を育む未来計画

2007年10月、川前保育園のこどもたちと教職員がいっしょにドングリ拾いをしました。大学と森林公園の境目にあるコナラの木の下です。一個ずつポットに植え、大学が気づかずに苗を育て、翌年に同じこどもたちが第一調整池近くに植えました。いつの日か、滝沢森林公園からつづく豊かな森となることを願って、ドングリから木々を育てる取り組みが始まりました。この取り組みは、景観再生計画のひとつとして現在も続けられています。



今年も川前保育園の園児が、どんぐりを拾い苗木を植えました

アカデミックエリア

- 原風景と建築群の調和
- 学部ごとに特色
- 学部間の交流をはかるガーデンスペース

ナチュラルエリア

- 今までと変わらない風景
- 既存の防風林や、調整池を風景に溶け込ませる
- 過剰な植栽は行わない

コミュニケーションエリア

- 人々でにぎわう都市的なモール並木

自然と人間が共生する地域の森へ!

Link Web IPU

特集1

県大の環境共生型キャンパス

自然と人が交流する地域に開かれた大学として次世代につなぐ景観づくり進行中



1. ビオトープの形成

豊かな水辺植生が多様な生物のよりどころ(ビオトープ)となり、多くの鳥が訪れる第一調整池。調整池とは本来、洪水を防ぐ流出調整用の空の池ですが、この池だけは常に水が満たされているため、外から野生植物が入り込み、なだらかな水辺に植生帯が成立しています。この池がバードウォッチャーの名所となっていること、知っていましたか？ なお、この水は学内から排水された汚水を大学独自の施設で浄水処理したものです。



調整池は多くの野鳥が訪れるバードウォッチングポイント

2. 林に包まれたキャンパス

キャンパスを周回する歩道沿いには、多彩な植栽がほどこされ、四季を彩る花々と雑木林が建物を包むように広がっています。東側、第一調整池を見下ろす、なだらかな丘の上に立ちまわらう。そこには、美しい稜線をえがく岩手山とキャンパスがつくる景観がひろがります。山と森と草原と池の4つの要素がそろった風景は、見るものにやすらぎを与えていると言われています。地域のみなさんや学生の憩いの場として親しまれる人気のスポットです。



自然の変化にゆだねた池と公園の遠景

次世代につなげたい価値ある景観

**来日して今年で18年目
この仕事は私の天職です**

瀬川 ●最初に、私たちの最近の活動からご紹介したいと思います。
堀籠 ●それでは、私から。最近では、10月にスタートした「いわてチャリバト隊」の活動に参加しています。チャリバト隊は、風土熟人Rの活動の一つで、学生が空き時間に自転車で滝沢駅周辺をパトロールしながら、地域の安全安心を見守る活動です。自転車で風を切って走るのには気持ちいいですよ(笑)。

瀬川 ●私は、堀籠さんと同じ風土熟人Rの活動にも参加していますが、最近では、大学祭実行委員として忙しい毎日を送っています。先日、大学祭が終わったばかりですが、実行委員の活動内容は多様で、1年を通して大学祭開催のための活動を行っています。
堀籠 ●劉先生は、日本語がすごく自然ですが、日本に来て何年目ぐらいになるのですか。

劉 ●そうですね、来日して今年で18年目になります。盛岡市に来てからは、11年目ですね。それまでの7年間は仙台市にいました。
堀籠 ●それ以前は中国ですね。

劉 ●はい、生粋の中国人ですよ(笑)。大学時代は、日本の社会学者である福武直さんの著書『日本村落の社会構造』を中国語に翻訳しながら、社会学を勉強していました。その後、河北省社会科学学院の研究者を経て、東北大学の大学院に留学しました。
瀬川 ●それから、迷うことなく18年ですか(笑)。



岩手農科大学の現地視察講座で一関市大東町の「工房地あぶら」を訪問

**異文化理解に欠かせない
グローバルな視点と客観性**

瀬川 ●劉先生は、岩手の農村地域社会を研究しながら同時にアジアやヨーロッパをも研究フィールドとして活動されていますが、世界を知り理解するためには、どんなことが大切だとお考えですか。

劉 ●岩手にいるから世界が見えない、わからないではなく、自ら進んで情報を求め探ること。大切なのは、マスメディアの情報に頼ることなく自分の目で見て考えることです。そして、その情報は常に客観的なものでなくてはなりません。グローバルな視点と客観性とは、異文化を知る上では欠かせない要素です。情報の客観性を確保するという意味では、外国語の習得も重要ですね。

劉 ●とんでもない、大いに迷いましたよ(笑)。縁があつて県大での教職の道に進みましたが、決め手は、学問の自由です。学問の自由のある教育・研究の道を選びました。県大に来て11年目の今、ああ、これは私の天職だなと感じています。学生に教えることも楽しいし、研究者として学ぶこともまだまだたくさんあります。岩手の農村もおもしろいですよ。

使命感をもってプロのスキルをみがこう

～人生を開く外国語の可能性～

教員と学生が身近な話題から現代社会の問題までを自由に話し合うトークセッション。講義では聞けない疑問、珍問なんでもありの学生企画コーナーです。

Cast **堀籠 恵利**・社会福祉学部1年
Horigome Eri

劉 文静・共通教育センター准教授
Liu-Würz Wenjing

瀬川 輝美・社会福祉学部1年
Segawa Terumi



**農科大学の現地視察講座で
生産者の主体性に注目**

堀籠 ●岩手では、どんな地域に注目していますか。
劉 ●秋に、岩手農科大学の現地視察講座に参加して、一関市大東町の「工房地あぶら」さんを訪ねてきました。「地あぶら」は、地ビールや地酒などにちなんだ菜種



油のこと。大東町に合う転作物を模索していた農家5人の有志が17年前に始めた取り組みで、国産の菜種を栽培し菜種油を供給しています。農産物の販売活動で大切なのは、生産者の主体性です。「工房地あぶら」の主体性ある意欲的な活動は、農村の地域活性化に大いに貢献していると感じました。

特集2 **トークセッション**
教員と
学生による
対話集 Vol.7

Link Web IPU

**外国語習得に大切なのは
目的意識と使命感**

堀籠 ●外国語習得は、どの程度までやればよいのでしょうか。劉先生のような自然な外国語を話すようになりたいと思いますが、難しいそうです。
劉 ●外国語は完璧にはなれないかもしれ



児童福祉司をめざして県立大学に入学。学生ボランティアセンターに所属し、風土熟人Rの活動に熱心に取り組んでいる。今年の夏は、岩手宮城県地震の被災地一関市巖美町に開設された出張ボラセンに参加。宮城県古川高校出身。



社会福祉士と精神保健福祉士の両方の資格をとれることから県大に入学。病院専属の医療ソーシャルワーカーを目指している。学生ボランティアセンターに所属し、風土熟人Rの活動に参加。大学祭の実行委員としても活躍している。花北青雲高校(花巻市)出身。

ませんね。私も完璧ではありませんよ。外国語を習得する際に重要なのは、外国語の習得を何のためにするのかという目的意識をしっかり持つことです。私の場合は、学びを究めるために、そして人生を切り拓くために日本語やドイツ語が必要だったのです。一度外国語を学ぶと決めたら、プロとしてのスキルを磨いてほ

しい。大学時代の語学に終わらせず、それぞれの専門分野で使命感をもって、人生を切り拓く道具として外国語を生かしてほしいと思います。
瀬川 ●すばらしいお話をありがとうございます。

広がる国際交流

日本韓国語教育学会 創立記念国際学術大会開催

11月13日、「日本韓国語教育学会創立記念国際学術大会」が本学講堂において開かれ、韓国語教育に携わる内外の関係者によるシンポジウムが行われました。同日は、シンポジウムに続き、「淵澤能恵 生誕160周年記念フォーラム」が公開で開かれ、14日には、アイーナキャンパスにおいて研究発表が行われました。



内外の研究者を集めて開かれた日本韓国語教育学会創立記念国際学術大会(13日本学講堂にて)



アイーナキャンパスで開かれた研究発表会には、朴さんも参加。朴さんの研究発表は、韓国語で行われました。

イースタンワシントン大学(EWU)との 研究国際交流報告会を開催

11月12日、ソフトウェア情報学部において、イースタンワシントン大学(EWU)との研究国際交流報告会が開かれ、大学院生が現地での交流の様子を紹介しました。イースタンワシントン大学は、米国の北西部でカナダに隣接するワシントン州にある州立大学です。2002年10月に正式に学術交流の協定を締結。ソフトウェア情報学部では、イースタンワシントン大学コンピュータサイエンス学科とソフトウェア情報研究科の教員および大学院生の研究レベルでの交流を行っています。

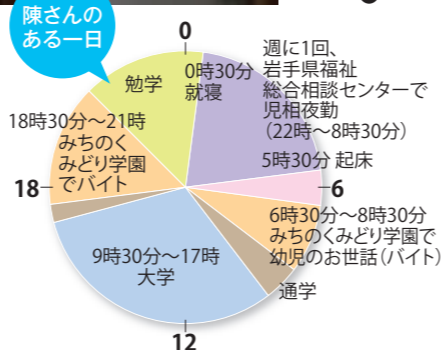


陳さんのふるさと遼寧省瀋陽市内に残る清朝の離宮を見学

Profile

Chen Hao(チェン ハウ)

中国遼寧省瀋陽市出身。高校時代から独立心旺盛で、高校を卒業してすぐ来日。日本語学校で2年間学んだ後、芝浦工大に入学し応用化学を専攻したが2年で中退。翌年すぐに県大社会福祉学部に入學し現在に至っている。来日当初まったく話せなかった日本語も今では、東北弁が飛び出るほど。日本リハビリテーション工学協会に所属。



Q・突然ですが、恋愛していますか?
陳 ● 答えはイエス、相手は日本人です。県大の先輩です。この夏、一緒に中国に帰って、両親に紹介しました。真剣におつきあいしています。
朴 ● 韓国につきあっている人がいます。県大には、韓国語を話す相手がいらないので、その人と電話で思う存分韓国語を話しています。
Q・盛岡・滝沢の印象は、どうですか?
陳 ● 盛岡・滝沢にきて5年目で、たくさんやさしい人に出会って、そしてお世話になり、自分が恵まれていることを非常に実感しております。
朴 ● 大都市生まれの私には、街の大きさが学問する環境としてちょうどいいと感じます。物価も韓国と比べても安いと感じますね。

Q・留学生活を楽しくしていますか?
陳 ● それはもちろんです。自分の専門分野を中心に生活のリズムを作れているから、楽しいと感じるのかな。今もバイト生活は続いています。バイト先は自分の専門を生かした仕事ですから、日々の暮らしに無駄な時間を感じず、時間帯が無いですね。それと、産直をめぐっての食への歩みが好き。
朴 ● 研究室の友人たちと一緒に学んだり、話し合ったりして過ごす時間が好きです。仲間を招待して、韓国料理でパーティーも楽しい時間です。自分で韓国料理を作って紹介しています。日本食って身体の調子にいいんですよ。韓国の実家に帰ると味が濃いなど感じるの日本食になれたからかな。

Q・県大を選んだ理由は?
陳 ● バイトしながら東京で大学に通っていたとき、バイトがメインなのか学問がメインなのか自分でもわからなくなると、朝から晩まで学費をかせぐために働いていました。そんな頃、高校の同級生から連絡があって県大のことを知りました。その同級生は県大の社会福祉学部で学んでいたのです。応用化学の世界ばかりに目を向けていたのですが、人間について学ぶ社会福祉学部がいいなと思いい、県大への入学を決めました。おだやかな地方都市で学ぶことにも魅力がありました。
朴 ● 何よりも研究しやすい、学問に専念できる環境だと思ったことが決め手でした。緑豊かな環境だし、研究室が広いですね。県大は、留学生にとってもやさしい大学だと思います。奨学金制度も他の大学と比べてもしっかりとっています。

Q・留学経験を生かしてどんな道に進もうとしていますか。お二人の将来設計を教えてください。
陳 ● 大学院の前期課程修了後に就職したいと考えています。芝浦工大で工学の世界を学び、県大で福祉を学んだので、福祉機器に関わる仕事など工学と福祉がなる分野で仕事をしたいと思っています。特に、ノーマライゼーションに国境はないと思っているので、日本でも中国でも活動できると思います。ノーマライゼーションは、障がい者も健常者も区別することなく社会生活を共にするのが自然だという考え方がですね。
朴 ● 私は、現在、福祉サービス施設の研究をしています。将来は福祉施設の経営をしたいと考えています。韓国で福祉サービスを提供できる人間になりたいのです。日本で学んでいることの一つひとつが、私にとってはとても意味のあることで、福祉の現場で経験を積んで、いつかは韓国で福祉の分野の人材育成にも携わりたいと考えています。

楽しんでいきますか?

特集3

県大の留学生Q&A

留学生生活を



朴珠喜さん

社会福祉学部 社会福祉学研究科博士後期2年

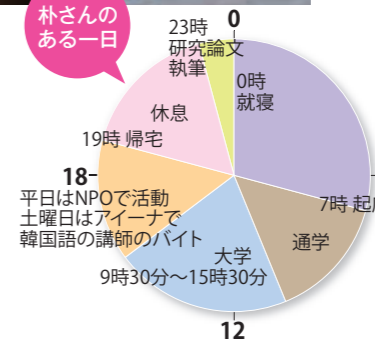


お母さんとお婆さんと一緒に韓国撫州にある mujersortを訪問

Profile

Park Juhee(パク チュヒ)

韓国で5番目の大都市、大田広域市出身。韓国又松大学校(Woosong University)卒。2006年来日し、県大社会福祉学部大学院に留学。博士後期課程を修了する2012年3月まで滞在予定。老年社会科学会、東北経済学会、韓国ケアマネジメント学会に所属。特定非営利活動法人・いわての保健福祉支援研究会の外部評価委員を務めている。



Q・なぜ、日本に留学したいと思ったのでしょうか。
陳 ● 一度は中国を出てみたかったのです。英語圏への留学を最初に考えていましたが、両親が日本だったら許すというので、高校を卒業してすぐに来日しました。日本語はまったく話せませんでした。

朴 ● 私の場合は、又松大学の教授が東北大学の出身だったので、日本の話はよく聞いていました。また、日本の介護保険制度を学ぶ機会があって、日本は身近な存在でした。大学4年生の夏休みには、韓国の社会福祉機関への就職が決まりましたが、自分の未熟さに気づいて福祉の先進地である

日本への留学を決めました。

短大での2年の間に
本気で学んだらどうなるんだろう

絵を描くことが好きだった高橋さんは、高校を卒業したら美大へ行くのもいいかなと漠然と考えていました。その高橋さんは、いよいよ進学先を決める時期になって盛岡短期大学部国際文化学科への進学を決めます。どうして？

「好きなことを学ぶのはいいけど、将来仕事の道具にするのは違うなと思いました。高校の科目で好きだった英語を生かせる大学へ進学して、自分の将来を真剣に考えたいと思ったのです」

入学してすぐに高橋さんは、ある決意を胸に秘めるようになりました。

「正直言うと、高校時代は真剣に勉強をしたことがありませんでした。そんな私をみかねた友達は、ていねいに勉強を教えてくれたし、応援もしてくれました。いよいよ自分の人生を考えたとき、友達への感謝の気持ちと同時に、応援してくれた友達への期待に何も応えていないことに気づきました」

高橋さんは、友達への応援や期待に応えるために自分には何が出来るかを考え、本気で勉強していなかった自分を見つめ直しました。

「本気で勉強した成果を友達に見せたら感謝の気持ちで伝わるんじゃないか。短大での2年間という時間を本気で勉強のために使ったら自分はどうなるんだろうとも考えました。私は、自分で自分に挑戦することを決めました」

**ロシア語を学び
授業料半額免除を達成**

勉強に夢中になりたかった高橋さんは、得意の英語ではなくロシア語を学ぶことにしました。「同じ学年で3人だけという少人数での講義

元気です県大生
私の未来設計
On Campus

すばらしい人生が目の前にある
そのことに気づいた短大時代
夢は、外交官となって
国際交流に貢献すること。



盛岡短期大学部国際文化学科2年
高橋華慧さん

ロシアミッションで出会った優秀な学生たち。

彼らともう一度会って一緒に働きたい。

そう思ったときから夢の実現へと歩み出していました。

なので教員と学生の距離が近く、自分の学びの成果がよく見える環境があると思えました。今までの私と違う自分を見たいという思いもありました」

ロシア語を学び始めた高橋さんは、ロシア語の難しさと楽しさを日々体験しながら、ロシア芸術にふれ、ロシア文化の奥深さに魅了されていきました。ロシア語だけでなく短大での勉強

に本気で取り組んだ高橋さんは、授業料の半額免除を獲得するほどに優良成績を達成。そして、自分への挑戦は、さらに続きます。

**ロシアミッションに参加して
芽生えた外交官への夢**

高橋さんは、昨年9月、北方領土問題対策協会が主催する「北方領土セミナー」という全国の大学生・大学院生が対象の視察交流会に参加するため、北海道根室市を訪れました。翌月には、北方四島交流北海道推進委員会と独立行政法人北方領土問題対策協会が実施する「ピザなし交流」の一環として、県大キャンパスを訪れた北方領土在住のロシア人を案内しました。

「20代から60代の北方領土在住の地域住民の方々と、私のロシア語がわかると好印象をいただき感激しました」

いよいよロシアへの関心が高まり始めていた高橋さんは、講座担当教授から紹介された日露青年交流事業（ロシアミッション）への参加を迷うことなく即決。今年の9月、モスクワとサンクトペテルブルグを訪ねるロシアミッションに旅立ちました。

「事前研修が東京であったのですが、参加学生のレベルの高さに驚きました。特に日本の外

交問題を真剣に考え、日本の国際交流に貢献したいという学生たちの本気に影響されました。ロシアミッションを終えたとき、あの学生たちともう一度会いたい、一緒に仕事ができる人間になりたい、外交の第一線に立ち活躍したいという思いが芽生えました」

**語り合うことで明確になった夢
そして揺るがない志**

外交の第一線に立つて活躍したいという夢に

向かって動き出した高橋さん。2011年の春、高橋さんは、ロシア留学をめざしてロシアとの交換留学制度のある大学の3年生へ編入学します。最後にもう一度、なぜ高橋さんはがんばれるのかを聞いてみました。

「今考えてみると、私は多くの人と語り合う機会があったからだなあ、と思えました。友達や親や先輩などと、いろいろおしゃべりしている中で、自分は何がしたいのかが明確になり、志も揺るがないものになっていったのだと思います」



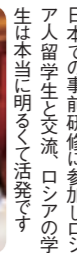
日口の共通問題を話し合った学生交流（モスクワ大学）では活発な意見が交わられました



バルト海に面したネヴァ川河口の美しい街サンクトペテルブルグにて



昨年10月の北方領土ピザなし交流の際に行われた夕食会



日本での事前研修に参加しロシア人留学生と交流、ロシアの学生は本心に明るく活発です



バルト海に面したネヴァ川河口の美しい街サンクトペテルブルグにて



日本での事前研修に参加しロシア人留学生と交流、ロシアの学生は本心に明るく活発です

ロシアミッションとは

ロシアミッションは、日本青年会議所が主催し、日露青年交流センターが共催する日露青年交流事業です。青年会議所のネットワークを活用し、全国の大学から参加者を募集し、交流プログラムを実施しています。平成22年度は、日本人学生14名、日本青年会議所同行者23名が参加し、ロシア人学生との交流を深めました。

事業内容

- 事前研修 第一回 7月3日～4日 第二回 8月21日～22日 東京
- ロシア人学生招聘事業 8月18日～25日 大阪・京都・東京
- 日本人学生派遣事業 9月20日～27日 モスクワ市、サンクトペテルブルグ市

夢を生きる 卒業生の今を知りたい CAREER MESSAGE

「メッセージ」

Link Web IPU 自分のための勉強をかねて 岩手県の全30カ所の道の駅を完全踏破

(株)宮古地区産業振興公社(シートピアなあと) 観光情報担当 甲斐谷 成美さん
●宮古短期大学部【平成22年3月卒】

全国から多くの観光客が訪れる「道の駅『みやこ』シートピアなあと」では、月に1回の割合で、宮古でなければ体験できない体験学習を主催しています。甲斐谷さんの役割は、その体験学習の企画を考え、講師への依頼や日程調整を行い、参加者の募集を経て当日のインストラクターを務めること。

「これまで夏休みの体験も含めて15回ほど実施しています。1回の体験学習に約20人の参加をいただいています。人気の学習メニューは、郷土料理づくりですね」

人と関わる仕事に就きたかったという甲斐谷さんは、学生時代にアルバイトをしていた現在の職場への就職を迷うことなく決断。入社してすぐの5月から11月までの期間、休みの日を利用して、岩手県のすべての道の駅を訪ね歩きました。

「新人にとって毎日が勉強ですから、旅行が好きなおもあって、岩手県の全30カ所の道の駅を見て回りました。施設の広さやサービスの状況、どんな名物があるかなど参考になることが多くありました。この経験をシートピアなあどのサービス向上に生かしていきたいと思っています」



保健師の専門性を生かすために 地域の人に会うことを大切にしています

久慈市健康福祉部保健推進課 保健師 照井 春樹さん
●看護学部【平成20年3月卒】

照井さんは、久慈市健康福祉部保健推進課に籍を置き、普段は出先機関である山根支所で保健師として働いています。その担当業務は、乳幼児検診など母子保健、生活習慣病などの予防を目的とした特定健診、特定保健指導、精神障がい者の家族会支援など多岐にわたり、生まれたばかりの子どもから高齢者まで、老若男女問わずすべての人を対象としています。山根地区と小久慈地区を合わせて約1500世帯が照井さんの担当エリア。

「看護師と保健師の資格を持っていますが、いろいろな人と接する機会の多い仕事があったこと、地域をフィールドとして働きたかったという理由から今の職場を選びました」

照井さんは、保健師の専門性を生かすためには、地域の人に会うことが大切だと考え、忙しい毎日のなかで時間を作っては、地域の家庭訪問を行っています。

「特に用事が無くても元気ですかと声をかけるだけでいいんです。地域のみなさんの健康を見守ることこそ保健師の仕事です。人をつなぎ、横の広がりをつくる専門家が保健師なのだと思います」



県大 YELLS

県大 YELLS のコーナーでは、
県立大学に寄せられたメッセージをご紹介します。

たかが鉄道、されど鉄道

Link Web IPU IGRいわて銀河鉄道株式会社 代表取締役社長 菊池 秀一さん



県立大学の皆さんには、大学生限定の学
年定期券「CamPass・キャンパス」
の利用をはじめとして、日頃から、IGR
いわて銀河鉄道をご利用いただきましてあ
りがとうございます。

鉄道のメリット

大学へは自動車でも通学している方も多
いと思います。自動車の良さは「いつでもど
こでも自由に動ける」こと、そして「個人
の空間を保てる」ことでしょうか。

一方、鉄道のメリットは何でしょうか。一
度に多くのお客様を輸送できるので、二酸
化炭素の排出を抑制できる「省エネ性」と「環
境対応性」が挙げられます。また、天候に
左右されないこと、自動車を運転する時の
緊張感や渋滞時のストレスがないこと、車
窓に広がる景色を眺めたり本を読んだり
と気ままに時間を過ごせること、そしてお酒
を呑んでも乗れることも魅力ですね。

鉄道ファン

鉄道は移動に便利な高速の交通機関です
が、これを単なる移動手段と考えずに、そ
の存在自体を愛するファンが数多くいます。
本屋に行く、鉄道関係の本やDVDが堂々
と一画を占めていることでも分かります。

また、鉄道の研究会や同好会がある大学
は数知れません。合宿を兼ねた鉄道旅行、
鉄道写真の撮影会や写真展の開催、鉄道模
型の製作や展示会などの活動をしながら、
会員相互の親睦を深めているようです。研
究成果を出版している大学の研究会まであ
ります。ここまでくると、趣味の域を越えて、
鉄道の魅力を多くの人に伝えたいという情

熱を感じさせます。

こうしたファンを引き付ける魅力は、鉄
道の多様性にあると思います。新幹線の車
両から蒸気機関車まで、通勤ラッシュの駅か
らローカル線の無人駅まで、各土地ならではの
の車窓風景や駅弁、さらには貴重な切符・
スタンプなど興味の対象は実に多彩です。

様々な「鉄ちゃん」

鉄道ファンが深化していくと「鉄ちゃん」
と呼ばれます。鉄道の多様性に対応してそ
の分野も多彩です。

鉄道写真の撮影が趣味の人は「撮り鉄」
と呼ばれます。車両を撮ったり、風景とと
もに撮ったり様々ですが、厳しい気象条件
にもめげずに最高の撮影ポイントを追い求
め、一瞬のシャッターチャンスにかけます。
列車に乗るのが趣味の人は「乗り鉄」です。
国内全路線踏破などの目標を掲げ、仕事や
学業の合間をぬって人知れず全国を乗り継
いでいる方が数多くいるようです。

その他にも、鉄道模型に凝っている「模
型鉄」、時刻表を調べて机上の旅行を楽しむ
「時刻鉄」、電車の走る音や車内放送を楽し
む「音鉄」、さらには、廃線や列車の引退の
情報を聞きつけては見に行く「葬式鉄」な
ど多種多様です。

芸術と鉄道

なつかしのフォーク番組には欠かせない
歌にイルカの「なごり雪」があります。駅
のホームでの別れという青春の一場面を描
いた名曲ですが、「駅」は、出会いと別れ、
入試や就職のための出発、あるいは家族旅
行など、人生の思い出のひとつに何がし

か関わっているのではないのでしょうか。

石川啄木と宮沢賢治は「ふるさとの訛り
なつかし停車場の人ごみの中にそを聴きに
ゆく」「銀河鉄道の夜」をはじめとして鉄
道に関わる作品を多数残しています。

また、鉄道をテーマにした芸術作品は、
絵画、文学、映画、音楽など幅広い分野に
及んでいて枚挙にいとまがありません。鉄
道の魅力が芸術家の感性を刺激して止まな
いのでしょうか。

自分なりのテーマを

「たかが鉄道、されど鉄道」です。人それ
ぞれの感じ方次第で、「単なる乗り物」が「趣
味や芸術のテーマ」にまで高まっていきま
す。鉄道関係者として鉄道を例に掲げまし
たが、鉄道ひとつでもこれだけの広がり
があります。

若い県大生の皆さんが取り組むことで
きるテーマは無限に広がっています。学生
生活は長いようでも短いものです。充実し
た学生生活を送
るために、そして
豊かな人生を目
指していくため
にも、幅広く興
味を持って様々
なことにチャレン
ジしてみてください
さい。そして、あ
なたが生涯追
求めるテーマ、あ
なたにとっての
「されど」を探し
当ててください。

